

寺井学園長就任挨拶

A portrait photograph of Dr. Toshiyuki Kondo, a middle-aged man with dark hair, wearing a suit and tie.

7月から7
代目学園長に就任しました。

た後、平成29年4月から児童心理治療施設「わかば館」の施設長として勤めてきましたが、そ

に環境整備に力を入れ、鳥居で整備していく文化を築き上げていきたい。これらのことを行なう実行しながら、目配り・気配りの心を大切にしたい。

子が多
く、今と
は全く違う
ものでした。平成15年に現
在の複合施設へ引っ越し、

たちはそれを補つほど大きな愛情と理解をもつて、

中日青葉学園に入職して36年
目を迎えて、これほど長く勤める
とは思ってもみませんでした。

ろそろ身を引くうと思つていた
矢先に学園長の話が舞い込み、
戸惑いがあつたことは確かで
す。

り・心配りを大切にし、お互いがお互いを思いやりながら、それが育ち合えることで、それを実現する施設を目指して、まさにハーモ

在の複合施設となつた際、わかば館の配属となりました。児童養護施設で8年間の経験があつたものの、寮をもつて子どもたちと過ごしていきます。

校で講師をしていたときに中日青葉学園を知り、中日新聞の片隅に出ていた募集要項を見て応募し、働き始めました。虚弱児施設時代は、9割を超える不登校児と生活を共にし、いろいろな体験を積み重ねていきました。平成15年10月には複合施設

もう少し頑張ろうと考え直し、やり残したことほないだろうかと考えたところ、次の3つの事を取り組んでみようと考ふました。まず第一に、職員の援助技術の底上げに力を注ぐこと。挨拶と声掛けがきちんとできるようにし、人との距離の取

中日青葉学園は一つ！「あおば館」「わかば館」「三つ葉」がお互いに支えあって地域の拠点となり、誰もが気軽に集えるような、暖かくて楽しそうな「中日青葉学園」にしていきたいと思っています。

A portrait photograph of a middle-aged man with dark hair, wearing a dark suit jacket, a white shirt, and a patterned tie. He is looking directly at the camera with a neutral expression.

倉橋あおば館館長就任挨拶

的養護に対する気持ちを、挨拶に代えて紹介いたします。中日青葉学園にはご縁もあり、2000年から12年までケアワーカーとして勤めておりました。先輩職員、愛知県内の他施設の方々には、施設養護に勤める者の「気概」を教示いたしました。育てていただきました。

れ、その恩恵の元で私も子どもたちも育ってきたのだと痛感したのです。「家庭養護こそ世の光に」との思いに駆られて日本ファミリー協会の事務局長も勤めました。しかし、家庭養護ができる子どもへのサービス、社会貢献はミニマム。家庭養護の制度と比べ、「施設養護が戦後

設養護と家庭養護協働型の社会的養育を探求したいと考えております。家庭養護の実践を少しでも新しい養育の形として還元し、中日青葉学園に恩返しもしていくつもりです。子どもたちが夢や希望を持つて未来に羽ばたける社会的養育を目指します。

の子用の「ポプラ」の
加わりました。
私がこの世界に至
る28年。児童福祉を
環境は自まぐる
しています。私が学
ばかりのころの憲
法は、児童福祉法改
正児施設という大會
制の形態で、子ども



もたちが本來過ごすべき形の生活に、どれだけ近づけられるのか。全く同じにはできないかもしがれません。

る場所としての役割を担つ
ていると考えます。
地域社会に溶け込んだ
「三つ葉」として、まだ手
探りですが、これからも子
どもたちの笑顔を増やすお
手伝いをしていきたいで
す。(早崎)

中日青葉学園は、児童養護施設のねば館、児童心理療育施設わかば館と、異なる体系の複合施設です。そこで今年、分園型小規模グループケア施設「三つ葉」として、1月に女の子用の「さくらの家」、4月に男



応、医療施設との連携など、今までとは違った難しさがありました。また、時代の変化とともにに入所する子どものケースも多様化し、複合施設の必要性や療育施設の大切さを身をもつて本領(ほりゆう)。

理解するのに必要な対話であり、三つ葉の中では職員と子どもたちは、ある種の家族。朝、子どもたちを起こし、手作りの温かいご飯を食べ、学校の支度をして送り出す。掃除や洗濯をして、子どもたちが帰ってきて

A group of students are working on a science project outdoors. One student in a tan jacket and mask holds a large white plate over a metal frame. Another student in a black shirt and mask stands nearby. A third student in a tan jacket and mask sits at a small table. The background shows a chain-link fence and trees.

の子用の「ポプラの家」が
加わりました。
私がこの世界に飛び込み
28年。児童福祉を取り巻
く環境は自まぐるしく変化
しています。私が就職した
ばかりのころの青葉学園
は、児童福祉法改正前の虛
弱児施設という大倉
制の形態で、子ども

三つ葉は、これからの中
童福祉に必要とされている
社会的養護を実現できる環境
だと考えています。様々な
な事情があるから施設で生
活しなくてはいけない、とい
うのは、子どもが望んだ
ことではありません。それ
ならば、子どもたちが本来

たら晩ご飯を食べ、他愛もない会話や学校での出来事を語らい、風呂に入つて寝る。当たり前の日常を手にすることが難しかった子どもたちが、人が成長するのに必要な経験と知識を得ながら、いすれ巣立つて社会で活躍するための準備をす る場所としての役割を担つ